

海の生き物の生活環境・地域資源を守る大切さを実感 ～東通小学校4年生 環境公共工事勉強会～

7月2日（水）、東通小学校4年生を対象に、下北地方漁港漁場整備事務所主催による石持漁場環境公共工事勉強会「お魚たちの住み家『魚礁』について学ぼう！」が同校体育館及び野牛漁港で開催されました。この工事勉強会は、次世代を担う子供たちに地域の自然環境や、農林水産業を下支えする「環境公共」としての公共事業を知ってもらうことを目的に、今回、東通村で開催されたものです。

勉強会では環境公共コンシェルジュの奥本昭典先生から「山、川、海のお話」をテーマに、私たちが普段何気なく使っている水の循環や重要性について学び、続いて、県職員から東通村で獲れる魚種、稚魚の放流事業の重要性、魚礁の設置による効果、魚礁の作り方などについて学びました。

また、野牛漁港の魚礁製作現場や荷捌き所を訪れ、魚礁の大きさを目や手で体感し、生きているヒラメやホタテを見学したり、「八尺（はっしゃく）」という漁具を引いてホタテ漁の大変さを体験しました。

児童からは、「魚礁が海の中にあって、魚のマンションということがわかった」、「海をきれいにしていきたい」などといった感想があり、学校の授業では経験できない貴重な勉強会となったようでした。



魚礁の内部を触って体感



「八尺」を引いてホタテ漁を疑似体験



ホタテに挟まれないように！！

しょうかわざくら

莊川桜 2世苗木の寄贈

6月30日、電源開発(株)より寄贈された莊川桜苗木3本の植樹を行いました。

莊川桜は、電源開発(株)の御母衣ダム（岐阜県）の建設によって湖底に沈む運命であった樹齢400年余のアズマヒガン（学名：エドヒガン）の巨桜を同社がダム湖畔に移植し、桜のあった地名に因み命名したものであり、岐阜県天然記念物に指定されています。

電源開発(株)では、「人間の営みをしていく上で、開発は必要であるが、できる限り自然環境に配慮し、大切に精神について莊川桜を通じて育みたい」と、この莊川桜の実生から苗木を育て、莊川桜2世として寄贈する活動を行っており、今回、電源開発(株)が創立60周年を迎えたことと、大間原子力発電所に係る送電線について、村内での建設が完了したことを契機として、寄贈があったものです。

寄贈いただきました莊川桜は、砂子又地区（村防災センター一脇）へ植樹させていただきました。貴重な桜を寄贈いただき、ありがとうございました。



植樹した莊川桜



莊川桜の銘板

※アズマヒガン：主に本州・四国・九州の山地に自生し、早咲きで彼岸の頃に咲くためこの名が付けられています。